

高座海軍工廠史蹟めぐり

2022年5月8日（日）

1. 海軍工廠とは

海軍の艦船・兵器の製造・修理工場。1903年（明治36年）海軍工廠条例により、従来の施設は統合され、鎮守府（横須賀・呉・佐世保・舞鶴）に属した。

2. 高座海工廠の誕生は

航空機を製造する施設として1942年（昭和17年）ころから計画され、1943年から工事が始まり、大戦終盤の1944年5月15日に開廠式が行われ、同年8月ころから戦闘機の生産を始めたと言われる。

3. 規模は

軍が買収した土地は、百町歩以上。工員は1万人。

見取り図は別紙参照。

4. 製造したのは

雷電と名付けられた戦闘機。雷電は基地を攻撃してくる爆撃機への迎撃を目的とした、要撃機、日本では局地戦闘機と呼ばれた。

終戦まで630機ほど生産され、高座海軍工廠では全体の2割程度の128機が生産された。

5. 台湾少年工について

日本は、成人男性の多くが徴兵され、労働力不足ということもあり、植民地であった台湾の国民学校高等科の生徒たちに声を掛け、少年たちがやって来たのは開廠前の1943年で、8,400名とされる。

6. 地下施設について

本州への空襲が現実的になり、多くの軍事施設において、地下施設の建設が急ピッチに勧められた時期と重なり、高座海軍工廠でも、地下工場、地下倉庫などの地下施設の建設が行われ、地上の施設群とセットになっていた。

7. 見学箇所

- ①正門→現在の相鉄線相模大塚3号踏切辺り
- ②高座海軍工廠説明板→さがみ野駅北口桜通り
- ③芹沢地下壕跡→芹沢公園南管理棟近く
- ④台湾少年工顕彰碑→芹沢公園北管理棟近く

8. 配布資料

- ①当紙 高座海軍工廠史跡めぐり
- ②高座海軍工廠見取図
- ③座間市 市政ガイド 公共施設マップ

第4図 高座海軍工廠見取図

大矢高義氏作図・提供

